



photo 仲津山古墳



ふじいづら
8年計画

2024-2031年度 第六次藤井寺市総合計画

基本構想

p22-35

1. まちづくりの基本方向	p24-26
1-1. まちの将来像	p24-25
1-2. 施策の方向性	p26
2. 施策の柱	p27-30
3. 持続可能な行財政運営と進捗管理	p31-33
3-1. 施策推進のウェイト	p31-32
3-2. デジタル技術の活用推進	p33
3-3. 計画の進捗管理の考え方	p33
4. 計画の体系	p34-35

1 まちづくりの基本方向

計画期間末の令和13年度に目指す「まちの将来像」を明確にし、まちづくりの基本方向を定めます。

笑顔

子どもから高齢者まで市民の誰もが心身ともに健やかに暮らし、子育て、教育、就労、介護などライフステージに応じて、歴史豊かで、落ち着きあるまちとしての安心を実感し、互いの違いを尊重しながら、ともに支え合うことのできる優しさ笑顔あふれるまちを目指します

活気

古墳群・神社仏閣等の歴史資産といった本市の魅力を最大限に活かして多くの人を訪れるまちとするとともに、市民がコミュニティやイベントを通じて、地域課題に対応するビジネスの創出や活発な交流ができるような、にぎわいとわくわく感あふれる大好きになるまちを目指します

快適

大阪都心部からの優れたアクセスや豊富な歴史資産という特徴を活かしつつ、ゼロカーボンで自然に優しい良好な住環境づくりやデジタル技術の活用など、これまで以上に住みたく、住み続けたく、生活を楽しめるような快適に生活ができる居心地のいいまちを目指します

ふじいでら
8年計画

まちの将来像

笑顔と活気に満ちた快適なまち ふじいでら
～人と歴史が活きる未来へ～

「歴史文化の活用」

「都市イメージの向上」

1-1 まちの将来像

まちの将来像とは、計画期間末である8年後の令和13年度の本市が目指すまちの姿を表すものです。

前回の総合計画の将来像「つどいつながり 育つまち ふじいでら」にも表れているとおり、本市では『人とそのつながり』や市民同士が支え合う姿勢こそ、最も重要な財産であると考えています。

今回の総合計画においても、その想いを継承し、今後も市民が主役のまちづくりを行います。そして、人口減少・少子化・高齢化が進む状況にあっても、にぎわいと歴史文化にあふれた住宅都市という、藤井寺市の魅力を活かして、市民がこのまちで暮らすことを誇らしく思うようなまちを目指してまちづくりを進めます。

このことから、まちの将来像として

～人と歴史が活きる未来へ～
笑顔と活気に満ちた快適なまち ふじいでら

を掲げます。

将来像の実現を通じて、「市民一人ひとりのウェルビーイングを高める」ことを目指します。そのためには、公民連携や協働、共創を通じた「市民や事業者等との連携」により、行政サービスの質を高めるとともに、財政運営が厳しい中でも、さらなる行政サービスの拡充を図ります。

その中で、本市の特徴や魅力である、豊富な歴史資産を、教育などのソフト面や景観などのハード面で「歴史文化を活用」し、市民及び市外在住者が抱く本市への「都市イメージを向上させる」ことで、来訪客や移住・定住人口の増加と、地価をはじめとするまちの価値向上につなげ、まちの持続可能性を高めます。

これらにより、まちに対する愛着や誇りを育み、市民一人ひとりがより心身ともに健やかに自分らしく活躍できるまちを目指します。



1-2 施策の方向性

施策の方向性

世界遺産や
ふじいでら独自の
歴史文化を活かす

葛井寺、道明寺天満宮をはじめとした神社仏閣、世界遺産古市古墳群などの歴史文化は、私たちのまちが誇る貴重な財産です。
それらの価値の活用・発信を通じ、市民自らが魅力ある地域資源を再発見することで、まちへの愛着心を高め、まちのイメージアップ・知名度アップに取り組みます。
本市を訪れる人々にも、まちなかを楽しみながら周遊してもらい、まちなか観光を促進し、市内の商業地域の活性化や市民の活力を高め、魅力あるまちづくりとまちのにぎわいにつなげます。

市民や事業者等と連携し、
良質な住宅都市としての
イメージ形成

都市イメージを向上させるためには、大阪市内への高アクセスだけでなく、歴史的な街並みを持つ、落ち着いた良質な住宅都市としてのイメージを確立する必要があります。
あわせて、市民一人ひとりのウェルビーイングを高めるための、快適な生活の実現に向けた支援も必要です。
そのためには、市民や事業者等とともに、街並み景観の保全や市民マナーの向上、SDGsの推進、市民同士の支え合いの促進などに取り組みます。

未来への投資を通じて、
成長を支援

開通予定の八尾富田林線沿道のまちづくりや、地域内での取引・消費の促進、事業者における販路開拓やDX促進による生産性向上に向けた支援などを通じ、まちの活性化と成長につなげます。
また、未来を担う子どもたちへの投資として、GIGAスクール構想に代表されるデジタル技術の活用を含む様々な方法で、教育環境や子育て環境を整備し、生きる力を身に付ける環境づくりに取り組みます。

施策の方向性とは、今後どのような施策を実施していくかの考え方やスタンスを示すものとなります。将来像の実現に向けて取組を進める施策の方向性として、「世界遺産やふじいでら独自の歴史文化を活かす」「市民や事業者等と連携し、良質な住宅都市としてのイメージ形成」「未来への投資を通じて、成長を支援」という3つの方向性を定めます。



2 施策の柱

3つの施策の方向性に基づいた
取組の中核となる施策の柱として、
以下の5つの柱を定めます。

3つの施策の方向性に基づいた取組の中核となる施策の柱として、「①地域の人や資源を活かし、にぎわいと活力を創出する」「②子どもたちが輝き、生涯にわたり学び・活動する」「③誰もが健やかに暮らし、ともに支え合う」「④自然と調和しつつ、災害などから市民を守る安心・安全な環境をつくる」「⑤それぞれの地域の良さを活かし、快適で良好な生活空間を形成する」の5つの柱を定めます。これらの施策の柱を推進するうえでの重要な取組を、施策の柱ごとに「重点施策」として掲げます。

施策の柱



これらの施策の柱を推進するうえでの重要な取組を、
施策の柱ごとに「重点施策」として掲げます。



重点施策

Priority measures

1 地域の人や資源を活かし、にぎわいと活力を創出する

本市の強みである豊かな歴史文化を活かし、まちの魅力向上と観光の振興に取り組み、市民・事業者・市等が連携を図りながら、商店街の活性化やコミュニティ活動の促進など、にぎわいあふれるまちを目指します。また、全ての人の人権が尊重され、多様な価値観を互いに認め合うとともに、地区自治会やまちづくり協議会等による市民主体のまちづくり活動を一層促進し、市民・各種団体・事業者と市が協力して取り組む「協働・共創」という視点で、地域の課題解決と活力あるまちを目指します。

重点施策 魅力向上・観光振興

世界遺産に登録された古墳群をはじめ、国宝や重要文化財を有する葛井寺・道明寺・道明寺天満宮などの神社仏閣、国史跡である国府遺跡などの歴史資産を保全・活用し、それらの価値を国内外に広く発信するとともに、国等の協力を得ながら史跡周辺の環境整備を進め、歴史文化の薫るまちとして内外から認知されるまちづくりを進めます。

市民や近隣住民の普段づかいを重視したまちなか観光コンテンツを充実させるとともに、2025年に開催される大阪・関西万博や大阪観光のプラスワンを意識し、本市のまちなかにある世界遺産や貴重な文化財の魅力をも市内外にアピールし、市民・事業者のまちへの愛着を育むとともに、来訪者との交流促進を目指します。

活力

2 子どもたちが輝き、生涯にわたり学び・活動する

子育て世代が夢と希望を持ち、安心して子どもを育み、子どもたちが自由に成長できるような子育て環境を整備することで、未来を担う子ども一人ひとりが個性や創造力を伸ばし、予測困難な将来の社会を生き抜く「生きる力」を育むことができるまちを目指します。また、生涯学習の促進、スポーツ・文化芸術活動の振興などを通じ、心身ともに豊かに暮らすことができるまちを目指します。

重点施策 子ども・子育て支援

子育てを支え、子どもたちがのびのびと育っていくことができるように、子どもの教育・保育環境の充実や、地域や社会が子育て世代に寄り添い、子育ての不安を軽減することを通じて、子どもも大人も孤立させない、子育てしやすいまちを目指します。

学校・家庭・地域との協力体制をより強く構築し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、子どもが個に応じたきめ細かな教育を受けることで、確かな学力を身につけ、主体的で深い学びに取り組めるように、教育環境を整備します。

子育て

3 誰もが健やかに暮らし、ともに支え合う

健康への意識が高まる中で、市民一人ひとりが健康で、住み慣れた地域の一員として、生きがいを持って生活が送れるまちを目指します。また、地域住民がお互いに支え合う地域福祉を通じて、将来にわたり、誰もが安心していきいきと暮らすことができるまちを目指します。

重点施策 健康増進・支え合い促進

本市における、国保加入者の特定健診の受診率が周辺市町村に比べて常に高い水準で推移している特徴を活かし、今後も、健診の受診勧奨や保健事業を積極的に推進し、市民の健康増進と健康寿命の延伸を図ることで、市民一人ひとりが健康についての意識を持ち、生きがいを持って、健康で長生きできるまちを目指します。

年齢や障害の有無に関わらず、住み慣れた地域で、心身ともに健やかで、自分らしくいきいきと暮らすことができるように、地域における福祉活動や団体等の認知度の向上、新たな担い手による地域福祉活動の活性化により、市民相互の支え合いの意識の向上を図るとともに、福祉関係機関等の連携に取り組めます。

健康

4 自然と調和しつつ、災害などから市民を守る安心・安全な環境をつくる

自然災害をはじめ、感染症や事故・事件など、様々な危機事象が予期せず起こりうる社会において、適切かつ迅速な対応により市民の生命・身体・財産を守るまちを目指します。また、脱炭素化を進めることで安心・安全に暮らせる環境を次世代に受け継いでいくため、自然と調和した持続可能なまちを目指します。

重点施策 防災強化&ゼロカーボン推進

地震や集中豪雨などによる自然災害や感染症など、あらゆる危機事象に迅速に対応できる体制を構築するとともに、関係機関や関係団体と連携することで、被害を最小限に抑えることに努めます。火災をはじめとする様々な災害や事故の発生時などにも、適切で迅速に対応できる消防・救急救助体制の強化を図ります。

清掃活動や路上喫煙の禁止、各種公害対策などに取り組むことで、良質で安全な生活環境を整えるとともに、市民・事業者・市等が一体となって2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指します。

環境

5 それぞれの地域の良さを活かし、
快適で良好な生活空間を形成する

空間

コンパクトな住宅都市という特性を活かし、市民にとって快適でより住みよいまちとするために、時代や地域の状況に即した都市空間の形成を目指します。また、空き家の発生予防や活用促進に努めるとともに、市民生活の基盤となる道路環境や公園、公共下水道等の質の高いインフラ整備を進めることで、安全で快適なまちを目指します。

重点
施策

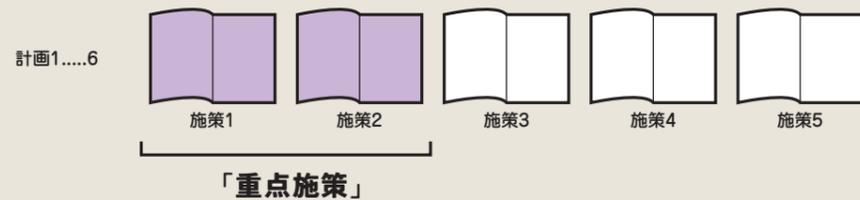
土地利用・空間利用と都市機能適正配置

本市の特色である歴史性を感じる街並みとして、葛井寺や道明寺・道明寺天満宮周辺では、景観に配慮した整備を進め、駅から歴史資産や周辺の店舗等への回遊性向上を図るなど、魅力的な空間づくりと地域の活性化を目指します。また、都市機能施設の集約・複合化による市のコンパクトさを活かしたまちづくりを進めます。

道路を、車、歩行者にとって利用しやすい良好な状態に維持し、道路ネットワークの形成に取り組むとともに、本市にふさわしい、より利便性の高い公共交通を整備します。

「重点施策」の示し方

！ 基本計画ページにおいて、「重点施策」に該当する施策は、各計画の施策1と施策2となります



！ 基本計画ページにおいて、「重点施策」を示すマーク、パターンを以下のように設定しています

「重点施策」マーク
該当施策の左ページの縦書きの施策名の下部につけています

「重点施策」パターン
重点施策を意味する「Priority measures」を該当施策ページの外縁にパターン化してバラバラめくる時に判別できるようにしています

基本計画ページは36ページから

3 持続可能な 行財政運営と進捗管理



安定した行財政運営を基礎とした
将来像実現のために「選択と集中」に基づいた
メリハリのある取組推進が必要となります。

「選択と集中」

3-1 施策推進のウェイト

各種の施策推進にあたっては、それを支える土台・前提となる行財政運営が安定している必要があります。今後、本市を取り巻く社会情勢が変化し、市民ニーズが複雑化・多様化していく中でも、持続可能な行財政運営を基礎としつつ、将来像を実現するためには、これまで実施してきた取組を単純に継続するのではなく、「選択と集中」の考え方に基づき、メリハリをつけて取組を推進する必要があります。

そこで今回の総合計画では、施策の柱ごとに、特に重点的に取り組む施策(重点施策)を明確にしたうえで、限りある財源や人員等をどのように配分するかといった、施策推進のウェイトを計画期間中に調整することを検討しつつ、取組を進めることとします。

そして、歴史資産が育んだ魅力を最大限に活用しつつ、市民・事業者・市等が連携し、「未来への投資に向けた「稼ぐ」基盤づくり」、「未来を担う人への投資」、「良質な住宅都市としてのイメージ・価値の向上」の視点からまちづくりを進めます。

まず、「未来への投資に向けた「稼ぐ」基盤づくり」では、大阪・関西万博やインバウンド需要の拡大トレンドに対応した観光振興、創業しやすい環境づくりを通じ、地域経済の活性化と新たな投資に向けた基盤づくりに注力します。

次に、「未来を担う人への投資」では、市民一人ひとりが可能性を活かせる環境づくりを進めます。具体的には、子育て・教育支援の充実や高齢者の健康寿命の延伸、コミュニティ活動の活性化を図り、誰もが輝けるようなまちを目指します。

さらに、「良質な住宅都市としてのイメージ・価値の向上」を目指し、道路や公共下水道の整備、歴史的街並みの保全、駅前への都市機能の集約化など、これらが藤井寺市の住みやすさを高め、「藤井寺市といえば、良質な住宅都市である」というイメージをより一層高めます。

こうした取組を通じて、市民一人ひとりのウェルビーイングが高まるようなまちを目指します。

歴史資産 × 市民事業者市など

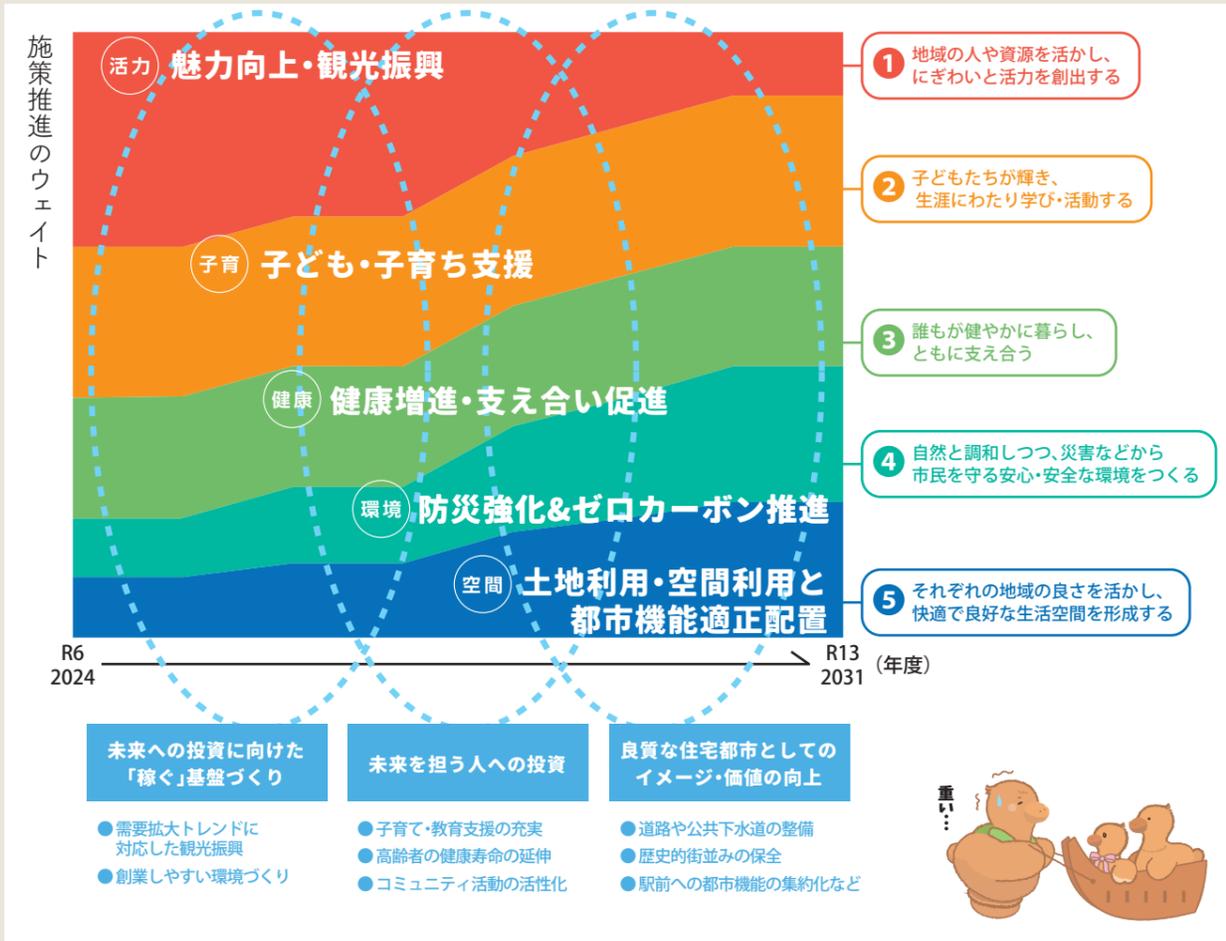
未来への投資に向けた「稼ぐ」基盤づくり

未来を担う人への投資

良質な住宅都市としてのイメージ・価値の向上

市民一人ひとりのウェルビーイング向上へ





また、取組の優先順位を明確化するだけでなく、徹底した歳出の削減・合理化やふるさと納税の活用等による行財政基盤の確立、職員配置の適正化等による行政運営体制の見直し、シティプロモーションや市民・事業者等との協働の推進による行政サービスの充実、行政サービスの点検・見直し等による行政サービス提供の効率化を、着実に実施することで、持続可能な行財政運営の実現を図ります。



3-2 デジタル技術の活用推進

社会情勢の変化により様々な社会課題が生じている一方、デジタル技術は急速に高度化が進んでいることから、デジタル技術を活用した効果的かつ効率的な課題解決を検討する必要があります。

本市におけるデジタル技術の活用にあたっては、主に行政サービスのデジタル化による市民の利便性の向上と行政事務のデジタル化による業務効率化の両面が考えられます。行政窓口のオンライン化・自動化等の行政サービスのデジタル化においては、特に「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」という観点が重要となります。

デジタル機器やサービスを利用することが難しい方も想定されることから、導入にあたっては、サポート対応やデザイン・設計に配慮します。自治体クラウドへの移行や紙媒体から電子データへの移行等の行政事務のデジタル化においては、特に「情報セキュリティの確保」の観点が重要となります。市及び市民の重要な財産である情報資産が、十分に保護されるようなシステム・環境の整備を行うとともに、市職員のデジタル人材の育成・確保及び情報リテラシーの向上に努めます。

これらの観点を踏まえ、デジタル技術活用の可能性を検討しながら、各施策を推進します。



3-3 計画の進捗管理の考え方

計画策定後は、計画に基づき、どのように実行していくかが重要であり、総合計画においても、実行性を担保するため、計画、実行、評価、見直しによるPDCAサイクルに基づく進捗管理を行います。

各施策の立案や、施策展開時の、より効率的な実施方法の検討、評価指標の達成状況の把握・分析及び評価指標の更新等を行う場合は、EBPM(証拠に基づく政策立案)の考え方を可能な限り取り入れ、統計等のデータによる客観的な根拠を用いることで、成果を見える化し、施策の有効性の向上を目指します。

施策の評価にあたっては、内部評価として施策の点検・評価を行うほか、必要に応じて市民や学識経験者による外部評価等を実施します。



4 計画の体系

将来像の実現のための「基本構想」「基本計画」の個々の位置づけ、構成などをひとつの体系図として示します

「～人と歴史が生きる未来へ～笑顔と活気に満ちた快適なまち ふじいでら」という将来像の実現のため、3つの施策の方向性を設定しました。これは市の施策展開の際の考え方やスタンスを示すもので、その取組の中核となるのが5つの施策の柱であり、施策の柱は一つひとつの施策を束ね、具体的な取組方向を示しています。それらを実現するための土台・前提として、持続可能な行財政運営に取り組みます。ここまですべてを総合計画における基本構想で定めます。

施策の柱を実現するために、施策の柱ごとに様々な取組を展開しますが、その中で特に重要な取組は重点施策として設定します。施策の柱ごとの取組や重点施策は、総合計画における基本計画で定めます。

そして、それらを体系図として整理すると、右図のとおりとなります。

将来像を実現するためには、施策の柱ごとに特定の分野だけで取り組むのではなく、福祉・子育て・環境・経済など多岐にわたる分野が相互に連携し、補完し合いながら、多様化する地域課題に対処することが求められます。このため、部署や施策の枠を越えて横断的な連携を図りながら、市民のニーズに応じた対応や各種施策を推進するため、「施策間連携プロジェクト」の仕組みを導入し、横断的な施策展開に努めます。

施策間連携プロジェクトは、市民との窓口となる事業課が把握したニーズ及び施策間連携プロジェクトの案を踏まえ、トップマネジメントにより、責任部署等の決定を行います。施策間連携プロジェクトの具体的な取組内容や進捗管理については、原則として総合計画ではなく事案ごとに個別に定めることとします。

- まちの将来像 24～25ページ
- 施策の方向性 26ページ
- 施策の柱 27～30ページ
- 持続可能な行財政運営 31～32ページ
- 重点施策 28～30ページ
- 各施策 38～101ページ
- シティプロモーション戦略 102～105ページ
- 施策間連携プロジェクト 106ページ
- 進捗管理 33ページ

見えるぞ！
見えるぞ！
輝かしい未来が！



体系概念図

